



木 森から始まる 金沢のミライ



目次

| | |
|---|----|
| 金沢の森のいまとこれから | 1 |
| 森からはじまる金沢のミライ | 5 |
| 金沢の森をミライにつなげる3つのプロジェクト | 7 |
| 1 いのちの森プロジェクト | 9 |
| 2 暮らしの森プロジェクト | 11 |
| 3 こころの森プロジェクト | 13 |
| さあ、みんなで森ミライしよう!!! | 15 |
| 持続可能な「森ミライ活動」にするために、 もっと考えるべき3つのこと。 | 17 |
| 森林環境譲与税活用検討会の設置目的および委員名簿 | 18 |
| 「森からはじまる金沢のミライ」の実現に向けて ー森林環境譲与税を活用した取り組みの提案ー | 19 |



表紙のビジュアルイメージについて

基本理念

森からはじまる金沢のミライ
～古くて新しい金沢スタイルの発見～
(金沢ミライシナリオの実現に向けて)

金沢の森の中でオーケストラが「森からはじまる金沢のミライ」をテーマとしたシンフォニーを奏でています。17人の演奏者は、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）の17の目標を表しています。演奏者の一人一人は、金沢産材を使って制作され、それぞれSDGsの目標のアイコンに対応するカラーで着色されています。



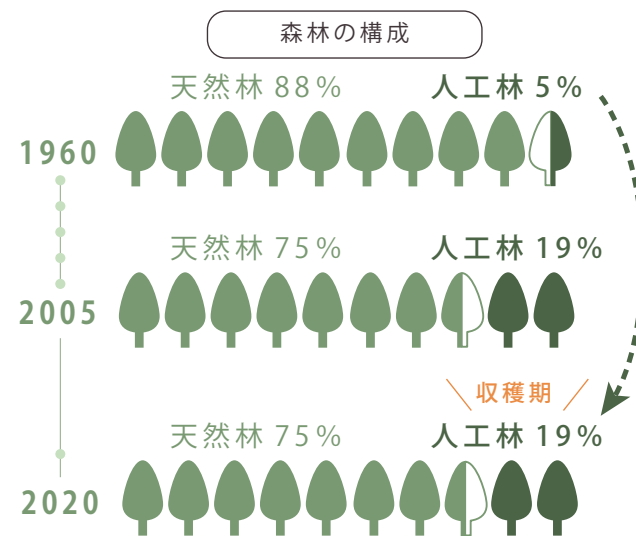
金沢の森の いまとこれから



「金沢の森」のいま

金沢市には、28,164haの森林があり、市の総面積のおよそ60%になります。国有林を含めた天然林が75%、スギを中心とした人工林が19%で、広葉樹が優先する森です。

人工林の多くは林齢45年を迎え、木材利用に向けた収穫（主伐）を待っている状態です。



森林資源の循環「植える、育てる、伐る、使う」

木材となる木を育てる人工林は、収穫後も跡地に苗木を植えることで、45年後には再び木材として利用できるようになります。このようなサイクルによって森林は持続的に利用できるのです。

でも、金沢の人工林は大きく育った今も、「伐る、使う」が不十分のためサイクルが滞っているのが現状です。



新しい森づくりへ

平成31年に多面的な公益的機能を持つ森林を国民が支えていく仕組みとして「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律」に基づいた新しい税と、森林の適切な管理を目的とした森林経営管理制度が創設されました。金沢市では、平成15年4月に「金沢市森づくり条例」を制定し、市民と一体となった数多くの森林再生施策を推進してきましたが、これを契機に国の新しい仕組みを有効に活用する新しい森づくりを検討しました。

「金沢の森」のこれから

人工林だけでなく、天然林も含めて、次世代につなげていくための持続可能な新しい循環サイクルを目指します。

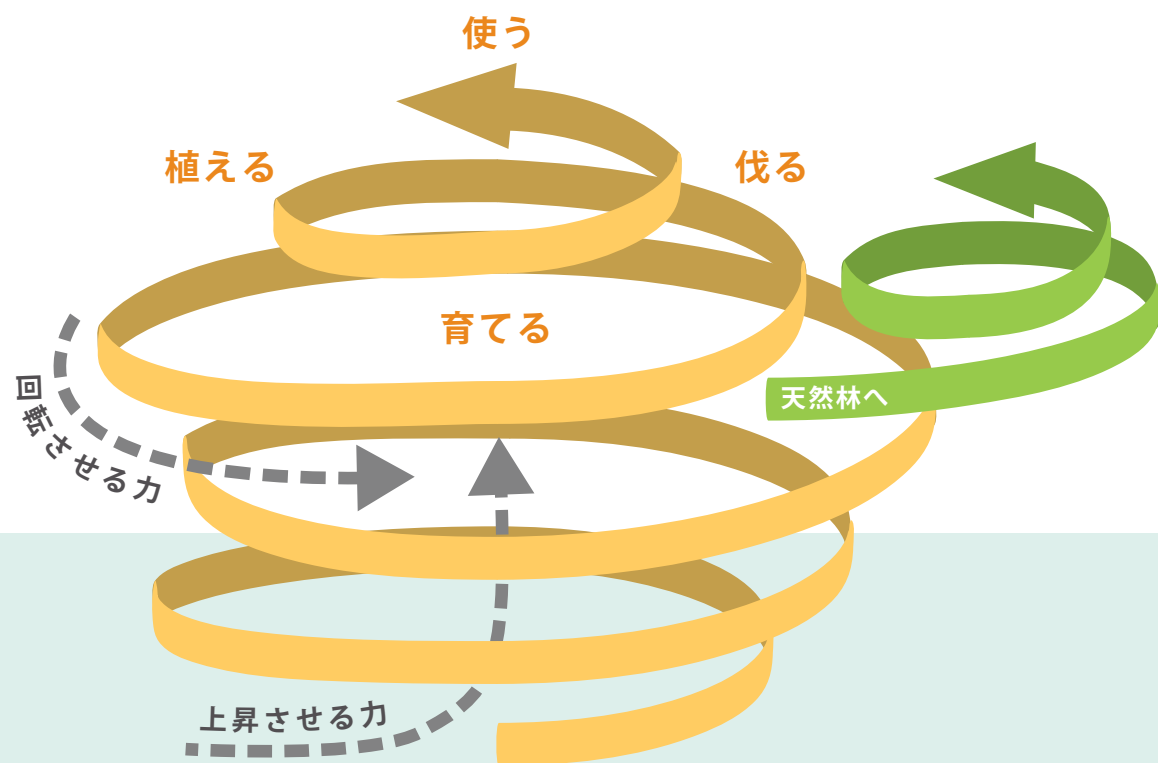
森は長い時間をかけてゆっくりと生長していきます。その間に社会は大きく変化していきます。その変化に対応するためには、「植える」「育てる」「伐る」「使う」サイクルが同じところに還るのではなく、らせんのように昇っていきながら循環させる必要があります。

「伐る」量が減った時は円の大きさを変えたり、「育てる」目標が変わった時は新しい円を生み出すことも必要かもしれません。例えば、更新して保全することを目標にした森は、天然林として別のサイクルを描きます。

そうすることで、多様な森のすがたを次の世代につないでいきます。

でも、このサイクルは人が手を貸さないと止まってしまいます。止めないようにするためには、継続的な「回転させる力」と「上昇させる力」の取り組みが必要です。

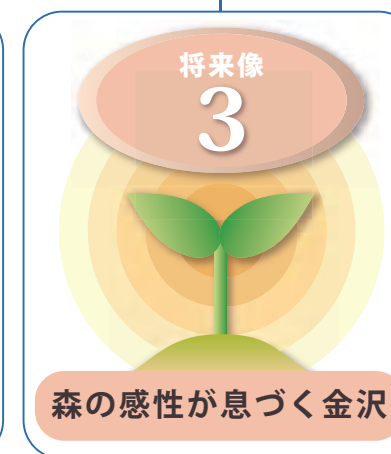
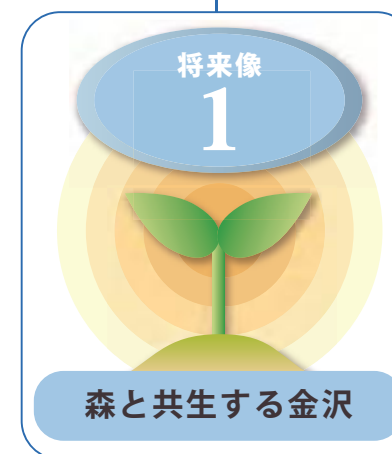
その新しい取り組みに向けた、基本理念と3つの将来像を提案します。



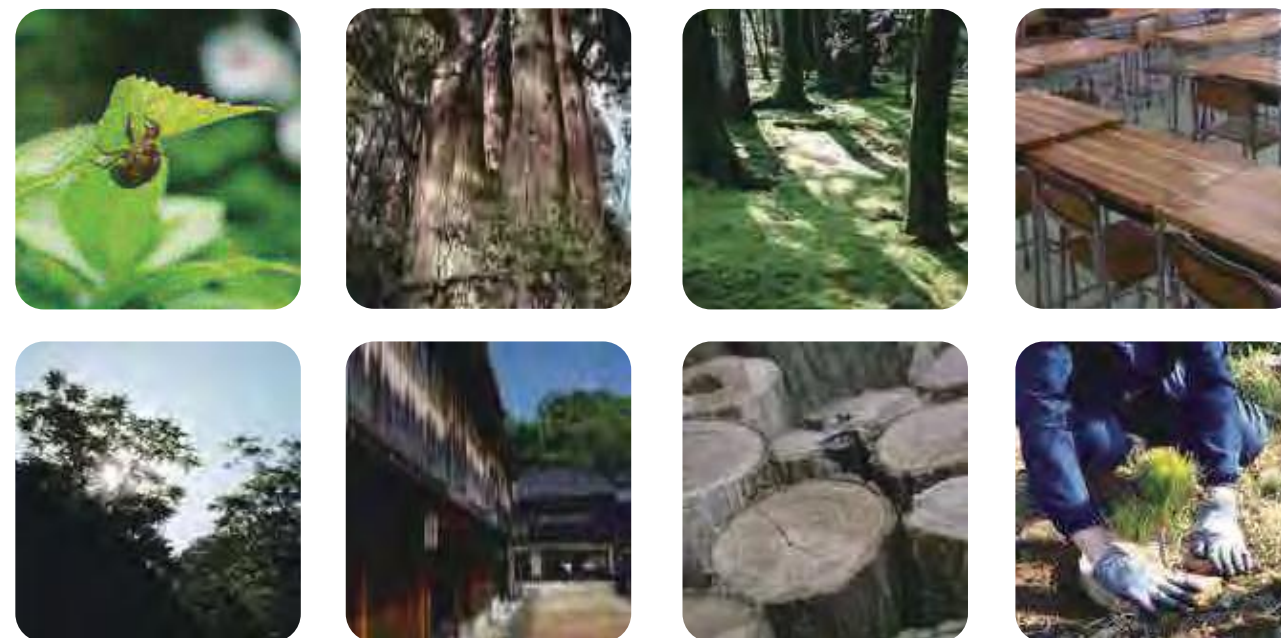
基本理念

森からはじまる金沢のミライ

～古くて新しい金沢スタイルの発見～
(金沢ミライシナリオの実現に向けて)



実現のための具体的な取り組みへ



森からはじまる 金沢のミライ

～古くて新しい金沢スタイルの発見～
(金沢ミライシナリオの実現に向けて)

森からはじまる金沢のミライ

金沢の地に生きる人々の暮らしは、縄文の昔から森や木と深くかかわってきました。森が森としてあるだけでも人々はその崇高さにこころを打たれます。森の恵みに感謝し、森から多くを学び、森を敬ってきました。森は私たちが生きる上で大切な存在です。だから森を守る加賀藩の「七木の制」も設けられたのです。私たちもその伝統を守り、さらに新しい森との関係を築いていく必要があります。

かつて、金沢は森の都と称されていましたが、最近は、あまり聞かなくなりました。森がこんなに近くにある町なのに、人々の意識から森が遠ざかってしまったのでしょうか。しかし、金沢の6割を占める森との関係なくして金沢のミライはありえません。私たちは再び森と向き合う必要があります。新しい森との関係を築いていくことで、再び「森の都」と認められるようになることで、はじめて金沢らしいミライが生まれるのです。金沢のミライは森からはじまります。

古くて新しい金沢スタイルの発見

何もないところから何かが生まれるわけではありません。いまある何かを大切にすることでこそ新しい何かが生まれます。いまあるものを大切にしながら、そこからなお新しいものを見出そうとする意識こそが創造性であり、そのような創造的継承の精神こそがまさに金沢の文化を築いてきたのです。そしてそれはSDGsの精神でもあり、金沢ミライシナリオを実現する力の源でもあるのです。

森の中に生まれた1本の実生が森の一員となり、育ち、親木を越えて伸びていくことで、森は新しく更新されていきます。それは木々の関係、木々と動物たちとの関係の更新でもあるのです。何百年、何千年とくり返されてきた古くて新しい森自身による森づくりです。その森を見続け、かかわる中で、人々は創造的継承の精神を身につけてきました。創造的継承の根源は森にあります。森の姿そのものが創造的継承であるからです。

「古くて新しい金沢スタイル」は、このような創造的継承を重んじる金沢の人々の生活スタイルを意味します。創造的継承は金沢においては特別なことではなく、新しい文化の芽のほとんどは、町のあちこちで、誰かによって、それと意識されずに生み出されてきたものです。今もどこかでひっそりと生まれているかも知れません。それゆえ、文化として共有されるためには、それは「発見」される必要があります。発見もまた創造的継承の精神がなくてはできません。市民に広く創造的継承の精神が共有されていることで、新しい文化の芽は金沢の文化として花開くのです。

(森林環境譲与税活用検討会 座長・上田哲行)

金沢の森をミライにつなげる 3つのプロジェクト

基本理念のもとで3つの将来像を実現していくために、森林環境譲与税を活用する3つのプロジェクトを提案します。

将来像 木の文化都市・金沢

2. 暮らしの森プロジェクト 森の恵みを活用する

金沢の森の未来図
(森林ゾーニング)をつくる

木を使う生活の豊かさを
もっと発信する

将来像 森と共生する金沢

1. いのちの森プロジェクト 森が森であることを守る

森林整備の
担い手を育てる

人を守ってくれる
森のちからを元気にする

いのち豊かな森にして
生物多様性を高める

新しい林業への挑戦を
支援する

金沢の木材を
使いたいときに
使える仕組みをつくる

金沢産材の活用を
促進する

市民それぞれの
ライフステージに
合わせた森を提供する

将来像 森の感性が息づく金沢

3. こころの森プロジェクト 森をたのしみ、森にまなぶ

森とのつきあいを
深める

森と木の文化を
体験する

新たな
「森のプロフェッショナル」
を育てる

① いのちの森プロジェクト

森と共生する金沢

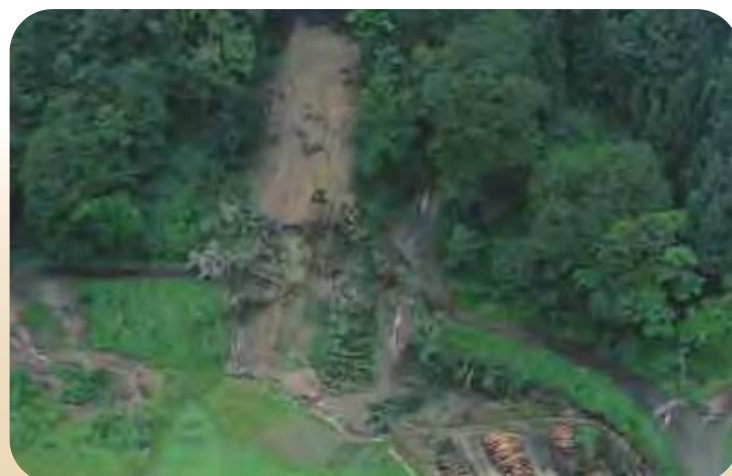
森が森であることを守る

森の命を守ること、その森が私たちや生きものの命を守ってくれる「いのちの森」となります。森を守り、森に守られる、それはまさに森と人の共生の実現であり、真に「森の都」と呼ぶにふさわしい金沢のミライの姿です。



森は山に水を蓄えたり、土砂災害を防止したり、生きものの多様性を保全したり、地球温暖化を防止するなど、いろいろな機能を持っています（森林の多面的機能）。それは、私たちの生活にもたくさんの恩恵をあたえてくれています。

しかし、人の手が入っていない暗くうっそうとした森は、その機能を十分に発揮することができないので、適切に管理していく必要があります。木を伐ったり、苗木を植えたりすることもその1つです。



グリーンインフラとして 森を整備する。



例えば、



- ・ 森の多面的機能を十分に発揮させるために森の見取り図（森林ゾーニング）の長期的な検討
- ・ 荒廃した森林を再生することによって、水源かん養・防災機能・減災効果等を安定的に発揮
- ・ 木材生産林、里山林、広葉樹林、海岸松林、野生動植物の保全林（クマ止め林含む）等の多様性のある森林整備を推進
- ・ 生きものと共生する森の復元など「森林再生」のシンボルとなる事業を展開
- ・ 木材利用を視野に入れた有用樹の植林と育成、木材認証制度の導入、森林資源量の把握等
- ・ 主伐、再造林による持続可能な森のサイクルを確立
- ・ 森林整備の担い手確保のため、林業大学校専門コースを拡充

GOAL



② 暮らしの森プロジェクト

木の文化都市・金沢

森の恵みを活用する

森の恵みがあふれるまちは、森を大切に思う人たちのまちであり、木の文化を創造的に継承するまちと言えます。森の恵みを積極的に活用し、森を循環的に更新することは、私たちの暮らしを豊かにすることにつながります。



例えば、遠くの山にある森だけでなく、木造の建物や木製の家具もCO₂を蓄えているもう一つの森だと感じると、生活の中に木を取り入れることは、地球温暖化対策につながることに気づきます。

森と木をもっと活用していくためには、林業や製材業など生産する側の人だけでなく、木を使う人たちと一緒に取り組んでいくことが持続可能な社会の実現につながります。



森と木のある ライフスタイルを 応援する。



- ・木を活用した市民の「ものがたりづくり」を応援・発信する
 - ◎ 小学校の児童机の天板を金沢産材で作り、6年間の思い出として卒業時に子どもたちに渡す
 - ◎ 幼い子どもに親が手作りの木のおもちゃを作って贈る
- ・森林ローカルベンチャーの発掘・育成、自伐型林業など新しい林業への挑戦を支援
(※プロポーザルによる公募方式を検討)
- ・木材需給体制の充実と製材所などの木材加工・流通業との連携による金沢産材活用促進
- ・トレーサビリティが確認できる金沢産材活用製品や特産林産物を「かなざわ」の名称を付けて公式に認定し、ブランド化を図る

GOAL



③ ころの森プロジェクト

森の感性が息づく金沢

森をたのしみ、森にまなぶ

森は不思議に満ちています。その森の中で生きものたちと過ごす時間は、子どもたちのセンス・オブ・ワンダーが発揮される時間です。ですから、子どもたちが森をたのしみ、森にまなぶことで「森の感性」を育むことができるのです。その森の感性こそが創造的継承の精神を生み出します。



森や自然は、大人たちにとってもからだの健康やころの安らぎを与えてくれる効果があります。

森には多様な生きものが生息し、四季折々の美しい風景の中で生きものたちと出会うことができます。また、古くから地域に根付いた山村特有の伝統や文化に触れることもできます。

金沢はまちの近くに森があります。だからこそ、森と人との関わりをもっと深めるために、いつでも森とふれあうことができる機会と場所が必要です。

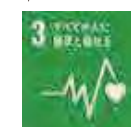
森が身近になる「森の博物館」を創出する。



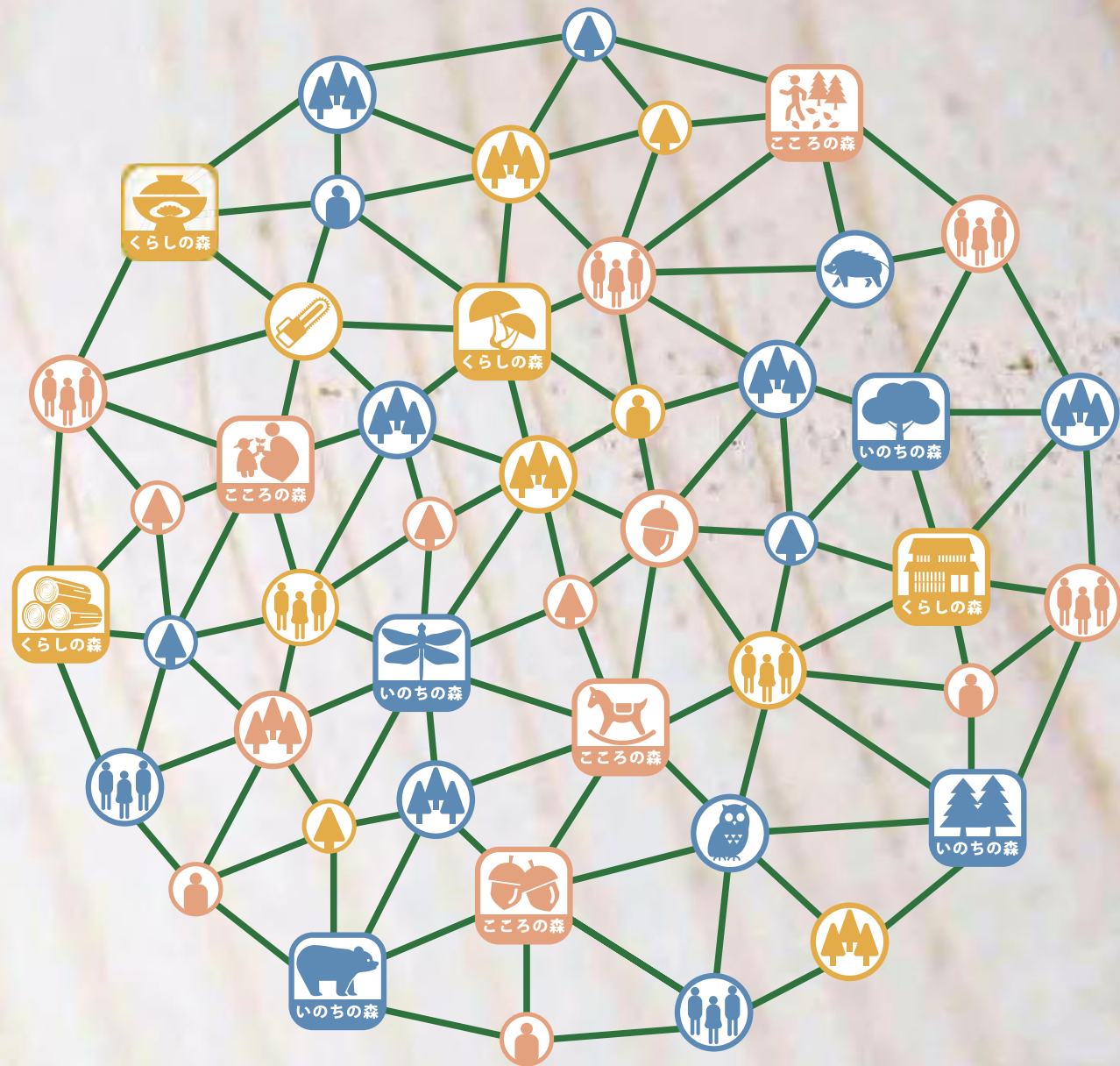
例えば、

- ・市民それぞれのライフステージに必要な森林を「森の博物館」として、いつでも体感できる機会や場所の整備等を検討し、市民に提供する
 - ◎ かんじる森：自然と出会い、森の感性を育む
 - ◎ まなびの森：自然を探究し、森の知的感性を育む
 - ◎ 気づきの森：自然を体感し、自らの森の感性を再発見する
- ・広い視野を持った「森のプロフェッショナル」として、森林について学ぶ新しい学校等を検討（保育士・教師等への研修、森林インストラクター等、林業の枠にとらわれない森林教育機関）
- ・森と木の文化を体験する、巨樹巡り、山村集落インターンシップ、森の食材の試食等を実施する

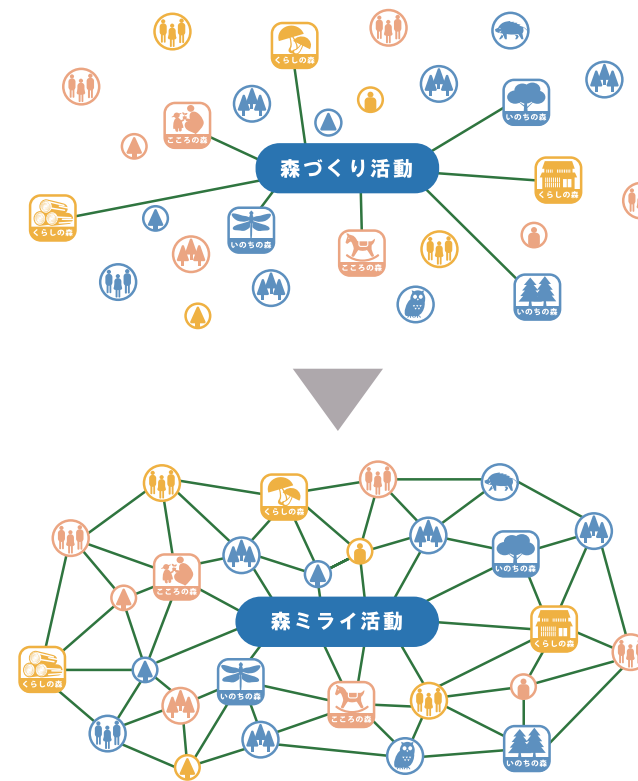
GOAL



さあ、みんなで 森ミライしよう!!!



「森づくり活動」から「森ミライ活動」へ



森づくり活動をアップデートする

基本理念等に基づく将来像を実現するためには、3つのプロジェクトの取り組みがそれぞれの領域内だけに留まることなく、得られた情報や成果を共有・補完し、また、時代の状況やニーズに応じて柔軟にアップデートし続ける必要があります。

したがって、森林環境譲与税による活用策を着実に推進していくためには、従来の個別的な「森づくり活動」の手法とは違う仕組みが不可欠です。それが多面的かつ流動的に森と人をつなげる【森ミライ活動】です。

森ミライしよう!!!

平成15年の「金沢市森づくり基本方針」により、森づくりの意義と森と木の文化の大切さを市民に伝え、様々な森づくり活動が進められてきましたが、森づくりを次世代へ創造的に継承するために、活動の仕方も新しい観点から見直す必要があります。新しい3つのプロジェクトだけでなく、既存の数々の取り組みも含め、さらに、いままで森や木と直接関係なかった「人」や「場所」もネットワークでつなげて行くことが必要です。**だれからでも、どこからでもはじめられる『森からはじまる金沢のミライ=森ミライしよう!!!』を合言葉に、みんなで発見する金沢の新しい森づくり【森ミライ活動】を提案します。**



持続可能な「森ミライ活動」にするために、 もっと考えるべき3つのこと。

コアづくりを考える

3つのプロジェクトの進捗や効果を調整・支援・統括管理する中核的な組織や体制の構築が必要である。PMO（プロジェクトマネジメントオフィス）の役割を担うセクションや、金沢の森林を総合的に企画・演出できるプロデューサーやディレクターのような人物を起用するなど、基軸となる人材から様々な取り組みを成長させるなど活動を支えていく体制を検討する必要がある。

【例】森林再生課・金沢市森づくり市民会議・金沢森林組合・林業振興協議会等の既存組織の活用や改変、ワーキンググループ・運営委員会・NPO法人等の新組織の設立、森林活動ボランティア団体の発展に向けた支援など

場所づくりを考える

3つのプロジェクトの活動・体験・発信のためには、森林や自然・学習施設・作業場・店舗等の拠点的な役割を担うフィールドや、森をより身近に感じることができる都市近郊のサテライト等が必要である。「金沢の森の入口」となる場所の創出をプロジェクトの進行と連動しながら検討する必要がある。

【例】百年後に都市の風格を向上させる中心市街地でのセントラルフォレストの創出、空き公共施設や中山間集落の空き家などのリノベーションやコンバージョンによる活用、埋立場など公共用地の積極的な緑化による森林再生、「木の文化都市・金沢」でのシンボルとなる木質建築など

人材づくりを考える

3つのプロジェクトが生み出す（または生み出そうとしている）人と人とのつながりは重要で、それは森ミライ活動の基盤となる。木材利用の観点で森から消費者までをつなぐことができる人材の育成や、より高度な専門機関（大学や研究室、企業等）との提携、既存の林業・森林関係者だけではない異分野との交流等、幅広い角度からのコラボレーションを検討する必要がある。

【例】中山間集落の地域コミュニティ再生・活性化（新規林業従事者の定住促進、森の暮らしの伝承等）、ソーシャルネットワークを活用した情報発信や市民参画、産官学協力、芸術・スポーツ・音楽など異分野との交流など

森林環境譲与税活用検討会の設置目的 および委員名簿

設置目的

森林環境譲与税活用検討会は、多面的な公益的機能を持つ森林を国民が支える仕組みとして創設された貴重な財源である森林環境譲与税について、新しい森林経営管理制度における効果的な活用を検討し、方策等を提案することを目的に設置されたものである。

会議開催

- | | |
|-----|-----------------|
| 準備会 | 令和2年 3月 25日（水） |
| 第1回 | 令和2年 10月 8日（木） |
| 第2回 | 令和2年 12月 22日（火） |
| 第3回 | 令和3年 3月 2日（火） |
| 第4回 | 令和3年 7月 5日（金） |
| 第5回 | 令和3年 10月 4日（月） |

委員名簿

座長

上田 哲行
(石川県立大学名誉教授)

委員

飯島 さおり
(一般財団法人 日本熊森協会前石川県支部長)

河崎 仁志
(金沢森林組合参事)

砂山 亜紀子
(もりらバー林業女子会@石川代表)

橘 多美子
(木育活動団体トントウの森代表)

永井 三岐子
(国連大学サステナビリティ高等研究所
いしかわ・かなざわオペレーティングユニット事務局長)

間明 弘光
(石川県林業アドバイザー)

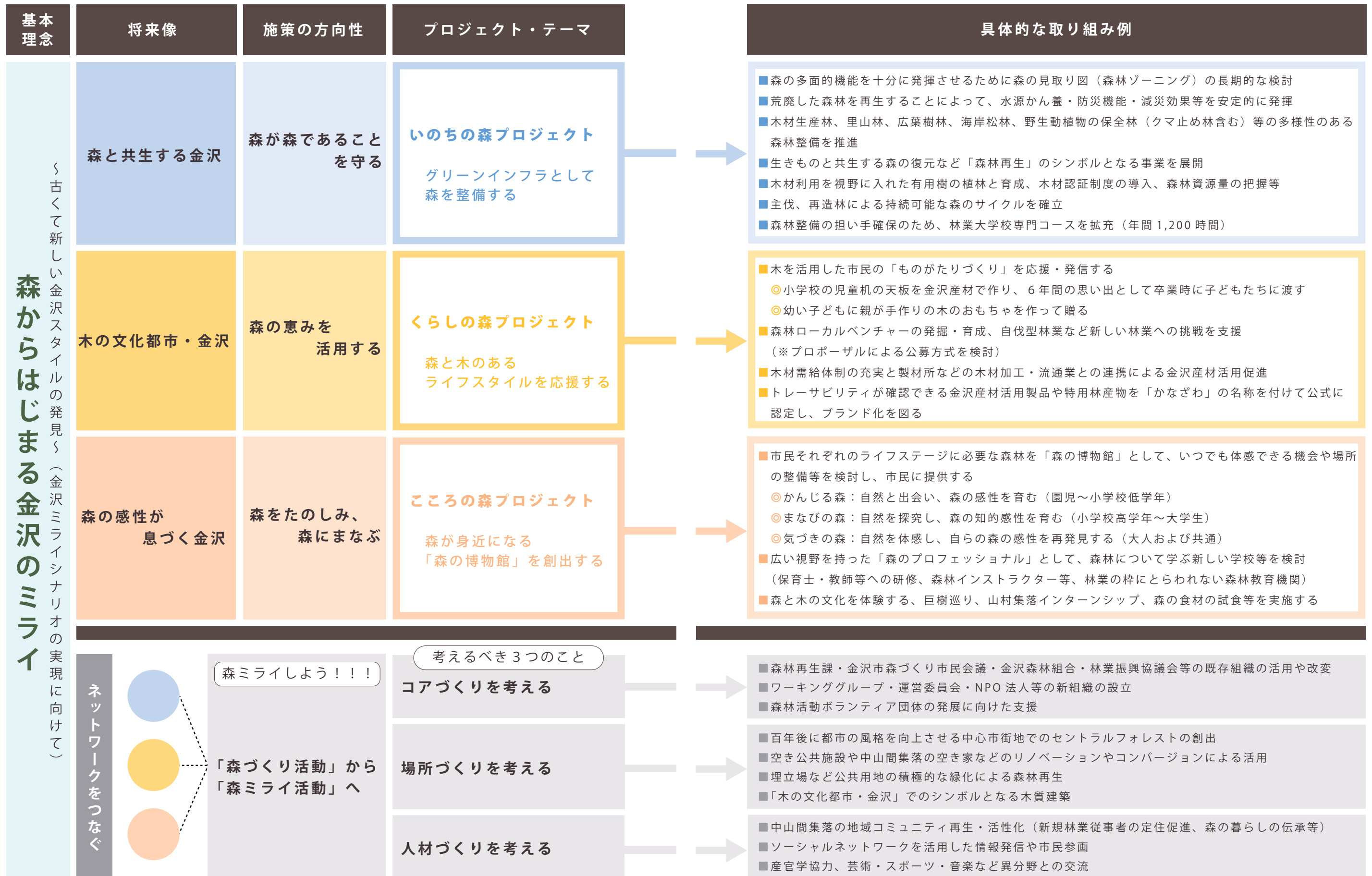
増江 世圭
(公益社団法人 石川県木材産業振興協会監事)

オブザーバー

柳井 清治
(石川県立大学教授・金沢市森づくり市民会議会長)

「森からはじまる金沢のミライ」の実現に向けて

－ 森林環境譲与税を活用した取り組みの提案 －



／ 森ミライしよう!!! ／



発行：森林環境譲与税活用検討会

編集：金沢市農林水産局森林再生課
〒920-0999 金沢市柿木畠 1 番 1 号
電話：076-220-2217
FAX：076-222-7291
